





2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 嘉麻市立嘉穂中学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	第1学年 56名 第2学年 67名 第3学年 68名 合計191名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名：総合的な学習
4 目標 (ねらい)	○オリンピック・パラリンピックを契機として、スポーツの価値や共生社会の大切さを知り、そのことと「嘉穂中人権基本法」の精神とを重ね合わせて人権尊重の精神を育てる。 ○夢の実現に向けて努力するパラリンピアン講話を聴くことや、車いすテニスの体験を通して、自分も新たなことに挑戦し、それを粘り強くやりとげようとする意欲を高める。
5 取組内容	○ “I mPOSSIBLE” 嘉穂中人権集会 (進行)人権専門委員会 1 はじめのことば 人権専門委員 2 人権専門委員長の話 3 講演「出会おう 感じよう パラリンピアン生き方考え方」 講師 川野 将太 選手 シーズアスリート所属 車いすテニスプレーヤー ロンドン・リオデジャネイロパラリンピック出場 4 車いすテニス体験学習会 5 お礼のことば 生徒会長 6 おわりのことば 人権専門委員
	   

<p>6 主な成果</p>	<p>○講演と車いすテニス体験を通しての生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健常者と障がい者という違いがあっても、スポーツをすることはとても大切なんだということが、身にしみて分かりました。 ・お話を聞いてとてもやる気が出ました。「過去を失っても未来を保て」、これは僕の心に響きました。 ・話を聞くと「かわいそう」の感情は無くなり、「残されたものを最大限に生かす」はとてもカッコ良い言葉と思いました。 ・東京に観に行っても応援することはできないけれど、テレビで応援しています。 ・自分のやりたいことをやり、目標に向かってあきらめずに頑張ることの素晴らしさを学びました。 ・東京パラリンピックへの関心が高まりました。2020年の東京パラリンピックをしっかりと応援していきたいと思いました。 ・チャレンジするのかあきらめるのか、そこで人生は変わっていくと思います。チャレンジを増やしていきたいと思います。 ・「失ったものを数えるな」と言われました。でも私はたぶん数えてしまいます。でもその度にあきらめずに頑張りたいです。 <p>生徒の感想にはそのほかにも、車イスでのプレーを体験してその大変さへの感想や、周囲の人々の支援やかかわりの大切さへの気づきが数多く見られた。また、「夢」や「挑戦」、「あきらめない心」等の言葉からも自分と重ね合わせながら感じる事ができ、概ねねらいは達成できたと考えられる。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>○パラリンピアンを招いての講演・体験学習を、本校の「嘉穂中人権基本法」をより学校生活にいかす取組の一つに位置付け、人権集会として実施要項を作成し、人権専門委員会の生徒たちが担当した。</p> <p>○講師の依頼や打ち合わせ等に、シーズアスリートと連絡をとりながら計画を実行した。その助言を得て筑豊緑地より競技用車いすの借用を行った。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○本校の立地等の条件を考えると、時間面・費用面などからも実際のパラスポーツに触れる機会は限られる。その中においても、車いすテニス大会等、種目や参加の形態を広げて、今後も生徒がパラスポーツに接する機会を設けていきたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○引き続き、保健体育科はもとより、総合的な学習や道徳科等での学びの機会を連携させ、一連の実践として内容を作成する。その中でも生徒による人権集会の実施など、本校が掲げる「嘉穂中人権基本法」と、それをもとにした人権尊重精神の育成などの目標にせまる実践を作り出す。</p> <p>○引き続き、試合観戦や講演・実技体験など、パラスポーツに実際に触れる機会を計画する。</p>